

平成24年度 第2回田原市図書館協議会議事録

日時：平成25年3月12日（火） 午後2時00分～午後3時55分

場所：田原文化会館203会議室

出席者：協議会委員8名

（平井、中島、山田、廣中、鈴木、小澤、永田、内浦）

事務局3名（豊田、惣ト、鋤柄）

議事内容

- ・ 開会
- ・ 館長あいさつ
- ・ 辞令交付
- ・ 自己紹介
- ・ 委員長、副委員長選出

事務局：それでは田原市図書館の管理運営に関する規則第20条により委員長の選出をお願いいたします。

どなたかご意見はございませんか。

委員：平井校長先生が適任と思われましてお願いしたいと思います。

全員：異議なし

平井：よろしく申し上げます。

事務局：続きまして副委員長の選出をお願いいたします。

どなたかご意見はございませんか。

委員：中島さんが、経験者ということをもふまえて適任と思われまして。

全員：異議なし

中島：微力ながら務めさせていただきます。

事務局：それでは、委員長が決まりましたので、委員長に議事の進行をお願いいたします。

協議1 田原市図書館の現状、新年度事業・予算及び本協議会の役割について

館長：パワーポイントにより説明

協議2 質疑応答、意見交換

委員長：今の説明に質問等ありませんか。

委員：3つの図書館で渥美・赤羽根の利用が少ないという大きな理由は？

館長：設備面の差と考える。中央は建物が大きく蔵書も多い。魅力的な建物になっている。

特に延べ床面積の差が数の差になっている。

委員：中央はネットで予約して図書館に行けばすぐに貸出できるが、ネットで予約した中央の本を渥美・赤羽根で受け取れるのか？

館長：できる。予約制度の認知度が低い。2年位前の調査で半分くらいが知らなかった。

委員：ファシリティマネジメントの話があったが、市の財政が厳しいと文化施設に矛先が向く。渥美・赤羽根図書館存続の市民側の意見をどのように言えばいいのかわからない。この図書館協議会で意見を言えばいいのか？ここまで来るのに自動車で20分くらいかかる。図書館が赤羽根にあって充実しているのがいいと思う。今後も存続していつてもらいたい。

委員：自宅から近い図書館を利用すると思われるが、利用動向を見ると渥美・赤羽根の住民は中央に来ている人も多くいると思うがどうでしょう。

館長：そういう人も大勢いると思う。中央と渥美・赤羽根とを使い分けている人もいる。赤羽根を使う人から聞くのは、中央は蔵書が多すぎて選ぶのが大変だとか、職員が忙しそうで声をかけにくいなどの声がある。

委員：赤羽根は農業研修生の中国人がよく利用していて、中国語の図書のコーナーがあって、利用することは、文化の共生とかでよいことと思う。自転車で移動するのだが、赤羽根からここまで来るのは難しいと思う。

委員：赤羽根、渥美の必要性を訴えるには数字が必要。貸出人数を増やすということで、青年会議所の仲間でも本はよく読むが図書館では借りる習慣がない。7時までということで、働いている時間とかぶり開館時間に行けないようだ。21時までとか開館時間が延びれば変わるのではないか。

委員長：ほかに質問でなくてもご意見あれば出していただきたい。

委員：赤羽根は17時で閉館だが、不便では？

委員：自分は夜に利用しないので不便とは思ったことがない。

委員：中国人にとっては、どうなのでしょう？日の長いときは、いいのではないか。

委員：夏場は、14～16時が日差しが強いため休憩時間となるので、その時間に中国人は図書館へ行っているのでは？

委員：中国人の利用の実情、よく読む本や雑誌などを把握しているのか？

館長：赤羽根担当者からは、中国語のDVDがよく借りられると聞く。インターネットも使っていた。以前に比べると中国人の来館は減っている。貸出も減っている。豊かになって自分のパソコンやスマホを持っているからと考えられる。

委員：利用動向の小学生、中学生の利用が減少傾向にある。学校図書館を利用して充足しているので公共図書館へ行かないのでは？

委員長：移動図書館の貸出もカウントしても減少傾向なのか。

館長：移動図書館分も入っている。学校図書館の利用は増えている。公共図書館と学校図書館では、役割が異なるので足せばいいというものではないという気がする。

委員：最近、小中学校で新聞利用の授業が増えていると聞くが、実際はどうか。

委員：単元で組まれている学校なら、新聞社の記事を読み比べるという単元が含まれているが、学校、教員により差がある。

委員長：新聞社も力を入れているところもあるが、市内において学校体制で取り組んでいるところは、把握していない。

委員：図書館にある新聞を利用できればいい。バックナンバーがたくさんある。

館長：新聞記事見出しデータベースを使っては？見出ししか見れないが、そこから発展して新聞へ繋げれば。

委員：10周年で市民が期待していることが大きい。外に向けてこういう連携があるといいとか、働きかけがあるといいということがあればお聞きしたい。

館長：電子書籍を、今回、大学と地域の人と図書館の資料とで作成したが、今後は組み合わせによってバラエティが出てくると思う。地域について発信できる、電子書籍ができると思う。ふるさと学習や観光にも使えると思っている。

委員：JCとタイアップしてもよいのでは。

館長：宝箱もおもしろい企画だった。WEBで発信できればよかったのでは。

委員：JCもそうだが、図書館もいいことをやっているのに市民にうまく発信できていない。子どもが帰宅して話すことやPTA会議など学校との結びつきをうまくやると大きな力になると感じた。

委員：図書館のPRとしてコーヒー店にパンフレットを置いてもらうなど、教育施設だけでなく商業施設にも依頼すれば、広がると思う。

委員：断られたが、病院の待合室とか、ポーと待っている時間があるところがいい。

館長：誰に対して届けたいのかで、ツールを考える。

委員：予約システムは、いいことだと思う。知らない人が多い。

委員：何かあった時に「図書館に行けば」という発想を持てるような子に思うがなかなかできない。授業だけでなく、学校教育全体で図書館を使えるように活動していきたい。

授業で使う本を以前は自分で借りに行っていたが、学校司書に協力してもらうようになった。

館長：図書館年報の4ページの「図書館見学・訪問」で昨年度は、小学校1校のみだった。

授業の中で、図書館へ来て使ってもらうことは難しいことか？

委員：田原中学が来ている話を聞いて、いいと思ったが、時間と交通機関がない。

田原市のバスを乗るが、事前にきちんとした計画をしないとダメで、行くとなる

と2時間では足りない。社会見学的な扱いになる。

委員：成章高校が汐川干潟の野鳥観察を10年くらい続けてきたが、バスの運用、費用面で中止になった。社会見学は、そこに行ってさもありなんという社会見学が多いが、ふるさと再発見目的にすればよいのでは。身近な社会見学も必要ではないか。

委員長：先週、市のバスで民俗資料館、シェルマに行った。総合的な学習、社会の時間で行える。図書館の見学に、どういう目的を持たせて、位置づけていくか。時間の組み方によって、セットでやっていくのは可能かもしれない。しかし、行事を削って、授業時間を生み出すようになっているので、難しい。

まずは教員が図書館を知らなければいけない。教員が田原市外の人もいるので、地元の図書館を知ってもらおうと研修を行ったことがある。知ればもっと自分で足を運んで、活用できるような有効な施設である。

委員：中学生の職場体験で、中央図書館で豊橋の中学生をよく見かける。どのように行く先を選んでいるのか。

委員長：学校により、教員により方法がさまざま。自ら企業にアポをとるところもあるし、リストから選ぶところもある。

委員：図書館を利用するのは第一歩が大事と思った。自分は数年全く利用しなかったが、子どもが幼稚園だったか小1で利用カードを作り、子どもにせかされて図書館へ行くようになった。きっかけがあると来るようになる。

委員長：足を向けなかった人に、裾野を広げて価値をわかってもらうことが大切である。

委員：利用カードが折れやすいので、もっと強度が強くないか。

子どもは、粗雑に使うのですぐに折れたり、洗濯してヨレヨレになってしまう。

館長：声があがれば、検討する。

委員長：今日はこれでよろしいか。ご協力ありがとうございました。